



# みちくさ

2015. 10. 29 No. 13

## 岡千仞（せんじん）という人



先日、長崎から突然お客様がいらっしゃいました。元校長先生だというご高齢の方でした。長崎にある学校の創始者が、岡千仞とゆかりがあったということで、遠く仙台の地を訪れ、様々なことを調べにこられたのでした。その岡千仞ですが、ご存知の通り、本校の前身となった麟経堂の創始者であり、当時の漢学者でした。この人物について改めて興味を持って調べてみるといろいろなことが分かりました。

- ・ 元治元年（1864年）仙台の土樋に塾を開き、二年後、養賢堂（仙台藩の藩校）指南役になる。
- ・ 戊辰戦争時、藩論に反対し（千仞は勤王派であった）投獄される。
- ・ 仙台藩主が朝敵となり、戊辰戦争後に東京に護送されることになり、千仞は先発して、東京で探索周旋を行う役目を受けている。
- ・ 新時代にふさわしい代議政治による議事局（議会のようなものか）を開くことを提案している。
- ・ 仙台北下を10区に分け、学校を建設するという提案をするも、議事局では受け入れられず、しかたなく、但木土佐の旧邸を借りて、明治2年に私塾麟経堂を開設する。（私塾は議事局で受け入れられた）→これが片平丁小学校になるのですね
- ・ 麟経堂の「麟経」とは「春秋」のことで、千仞は四書五経の中で、特に「春秋」に力を入れて講じていた。
- ・ 二十歳の頃には、幕府の昌平坂学問所に学んでいる。ペリー来航から安政の大獄を経て、幕末に至る時期、尊皇攘夷の嵐の中で、情勢報告の目的で京都などへも出向いている。

と、ここまで宮城県教育百年史（昭和51年宮城県教育委員会発行）からの抜粋ではありますが、まさにNHKで放映されている「花燃ゆ」の時代背景と同じ時を過ごした人であったということが分かってきました。またインターネット上にある情報なのでその真偽はわかりませんが、30歳頃には、大阪で「双松岡塾」を開いており、そこではかつて新撰組設立に名を残している清河八郎を指導していたとありました。なんとも、片平丁小学校をつくった方は、まさに全国区で活躍した人だったのですね。びっくりしました。

## かたわらにはいつもビートルズの曲が

小学校時代は全く音楽に興味のなかった自分ですが、中学に入った頃に、周りの友達からの影響もあり、自然に洋楽を聴くようになっていました。はじめて買ったレコードが、ビートルズの「Let it be」でした。中学2年の頃の話です。シングル盤のレコードの値段が370円でした。当時、まだビートルズは解散していませんでしたので、かろうじてビートルズ現役時代？といえるのでしょうか。ビートルズについての情報源はもっぱらラジオです。トップ20番組みたいなものがあり、そこで当時よくかかっていた曲が「Let it be」でした。しかし、今とは比べ物にならないくらい、極端に情報の少ない時代だったのです。だいたい、テレビでビートルズの映像が流れることなんてありませんでしたから。ビートルズの動いている映像を東芝がコマーシャルに使った時には、ほんの数秒でしたが、CMに目が釘付け状態になりました。



学校放送で当時ポップスのレコードをかけるなんてことも、ぜったいありえませんでした。ところが文化祭の時だけは許されたのです。ビートルズの曲をがんがんかけている部屋があり、ずっとそこに入り浸っていた記憶があります。

中学から高校にかけて、ビートルズ狂いをしていましたので、興味はごく当たり前のようにギターに向かいました。親父が買ってきて放っておかれたギターがあったので、それをもらって弾けないのにビートルズ気取りです。何年か後には、フォークギターがエレキギターに変わっていました。

まあ、ずっと一途にビートルズファンであったわけではないのですが、改めて聴き直してみても、新しい発見がたくさんあります。ずっと音楽に寄り添ってこられたのも、そして英語が好きになったのも（高校の時、英語の発音がいいと先生に褒められました）、ビートルズのおかげでした。洋楽を聴くということ自体が格好いいことだと思える時代であり、同年代の多くの若者と同じように、影響を受けて音楽を始めたのも自然の流れでした。



ジョンレノンが凶弾に倒れたのは、教員になって2年目の冬でした。ニュースで流れた時には、言葉もありませんでした。彼らは自分より10年くらい早く生まれているのですが、彼らのつくり出した文化をずっと後から追いかけているような感覚があったのです。病気で亡くなったジョージハリソンの当時の歳よりも、気づいてみるといつしか自分の方が追い越しているのです、おかしな気持ちになります。

たぶん、この先も、ビートルズは聴いていると思います。自分の葬式の時には、ビートルズのこの曲をかけるということも決めています。(笑)